

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	吸収性プレート対チタン製プレートの成人における脳外科手術での感染の比較
研究責任者	代表;藤本礼尚 分担研究者;脳神経外科 天野裕貴
研究実施体制	以前は糸やワイヤーで脳外科手術時の頭蓋骨固定を行っていたが近年はチタン製が一般的である。最近では体内に残らない吸収性ポリマー性プレートも、特に頭蓋骨の成長を鑑みて小児に用いられる。成人にも適応が通り成人にも使用はできるがチタンと比較し表面は粗い為細菌付着が予測される。そこで吸収性プレートは表面が粗いので細菌感染率が表面がスムーズなチタン製に比し感染しやすいであろう、と仮説を立てた。後方視研究
研究期間	IRB 承認日～2020年2月
対象者	2008年1月～2019年1月までに当院において頭蓋内電極留置術後てんかん外科手術を受けた方。
研究の意義・目的	チタン製プレートと吸収性ポリマー性プレートの感染率を比較する
研究の方法	【選択基準】2008年1月～2019年1月までに当院において頭蓋内電極留置術後てんかん外科手術を受けた方 【除外基準】頭蓋内電極留置を行っていない方。手術時に20歳未満の方。 【予定症例数】87症例 【症例数の設定根拠】上記条件を満たしている
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 てんかんセンター (氏名) 藤本礼尚 TEL:053-474-2222(代表) てんかんセンター外来 9:00～17:00 平日